

報 告

第 74 回日本歯科理工学会学術講演会報告

元号が令和になって初めての日本歯科理工学会学術講演会は、長崎での開催であった。今年は大型の台風が各地に甚大な被害をもたらすなか、今大会開催日も台風 18 号の影響が心配された。しかし予想進路を大きくずれてくれたため、台風の上陸はなかった。おかげで空路にての参加予定者の多くは、旅程の変更なく、長崎入りのできたことと思う。令和元年度秋期第 74 回日本歯科理工学会学術講演会が、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科生体材料学分野教授、渡邊郁哉先生を大会長として、10 月 5、6 日に長崎大学文教キャンパス中部講堂を主会場として開催された。本大会における一般講演の演題数は、口頭発表 14 題、ポスター発表 71 題の計 85 題であった。

初日は研究奨励賞応募口頭発表 2 題からスタートした。続く口頭発表の内 6 題は生物学的性質に関するアプローチであった。ポスター発表の内 27 題は、近年注目を集めている歯科材料のコンポジットレジン、セメント、セラミックスに加え、インプラントと生体安全性に関する演題であった。

13:10 からは「医工連携の取組みとロボット技術の未来」と題して、長崎大学海洋未来イノベーション機構教授、山本郁夫先生の特別講演が 1 時間行われた。工学がバックグラウンドの山本先生が 1995 年の完成品を皮切りに 20 種類製作した“魚ロボット” 20 種類の技術を医療用ロボットへ応用したことに始まり、3D-CAD と 3D プリンターとの連動、さらには今後 AI (人工知能) とメカトロニクスの融合の可能性および必要性についての熱弁であった。

懇親会は学術講演会会場から路面電車で 15 分ほどのザ・ホテル長崎 BW プレミアコレクションにて 17:30 から行われ、約 150 名が参加者した。宴たけなわの頃、長崎ランタン祭りで行われるパフォーマンスで参加者を楽しませる企画があった。

翌日のポスター発表の演題内容は、初日同様にコンポジットレジン、接着材、再生医療に関する演題が 20 題あった。また AI (人工知能) の応用に関する演題も 2 題登場した。

ランチョンセミナーおよび Dental Materials Adviser/Senior Adviser 特別セミナーは、神奈川歯科大学大学院歯学研究科クリニカル・バイオマテリアル学分野教授、二瓶智太郎先生の「Optical Coherence Tomography

(OCT)」の講演が日本大学歯学部歯科理工学講座教授、米山隆之先生の座長で 11:50 から 1 時間行われた。

シンポジウムおよび Dental Materials Adviser/Senior Adviser 特別セミナー「先端技術・材料にフォーカスした矯正歯科治療のさらなる可能性を探る！」は 14:00 から 1 時間半行われた。シンポジストは、日本矯正歯科学会から北海道医療大学歯学部歯科矯正学分野教授の飯嶋雅弘先生、日本歯科放射線学会から日本大学歯学部歯科放射線学講座教授の新井嘉則先生、日本金属学会から九州工業大学大学院工学研究院物質工学研究系准教授の横山賢一先生であった。飯嶋先生は「歯科矯正材料の近年の進化と未来展望」、新井先生は「小照射野・高解像力歯科用 CT 装置の開発から矯正領域への応用・展開」、横山先生は「歯列矯正用 Ni-Ti 超弾性合金線の口腔内における材質劣化とその対策」の講演をそれぞれ行った。その後、質疑応答が行われた。特に、口腔内における矯正用金属材料の耐食性に関する質疑応答が活発に行われた。最後にモデレーターが、歯科理工学会における矯正用材料に関する演題は今まで少なく、このシンポジウムが今後の矯正歯科領域における材料開発のイノベーションの創出になることを期待する、とまとめた。本シンポジウムのモデレーターは、日本大学松戸歯学部歯科生体材料学講座教授の谷本安浩先生であった。

両日とも晴天に恵まれ、最高気温 28℃で日向では汗ばむなか、会場は涼しく、また初日にはソフトクリーム 200 個限定無料サービスの粋な計らいもあった。渡邊郁哉大会長、阿部薫明準備委員長をはじめとする大会運営スタッフの皆様のご尽力により、つつがなく講演会が進行し、盛会裏に終了した。スタッフの皆様へ深謝し、第 74 回日本歯科理工学会学術講演会の報告とする。

洞沢功子

松本歯科大学歯科補綴学講座 (歯科理工学)

